

楠 第五十号の発行によせて

校長 原 拓史

このたび、群馬県立前橋南高等学校の生徒会誌「楠」が、記念すべき第五十号を発行する運びとなりました。この誌面を通じて生徒の皆さんの日々の努力の成果、そして躍動する学校生活の様子を、保護者の皆様、並びに本校に関心を寄せてくださる皆様にお伝えできるところを、心より嬉しく思っております。

さて、本年度、前橋南高等学校は、創立五十周年という大きな節目を迎えました。去る十一月には、多くの皆様のご協力のもと、記念式典、そして祝賀レセプションを挙げていただきました。当日は、本校の発展を支えてくださった同窓生の皆様をはじめ、多くの方々にご臨席いただきました。皆様は、現在の前南生の深刺とした発表に熱心に耳を傾け、「現在の前南生の様子がよく分かりとても良かった」と温かい励ましのお言葉をくださいました。

前橋南高校は、この五十年間のその時代に在籍をした生徒一人ひとりが、学習活動や部活動、学校行事に真摯に取り組み、築き上げてきた歴史の上に成り立っています。創立以来、受け継がれてきた生徒達の情熱と努力こそが、今日の活気あふれる前橋南高校を作り上げていると感じています。

そして、この生徒会誌「楠」も、五十年間にわたり毎年発行を続けてまいりました。第五十号という数字は、創立の年から一度も途切れることなく、その年の生徒たちの手によって大切に発行され続けてきたという、事実を意味しています。まさに前橋南高校五十年間の軌跡そのものです。

第五十号となるこの一冊にも、現在の前南生が、日々の学校生活の中で抱いた思い、深めた思索、そして実現させた行動を、生徒自身の言葉で記しています。本校の歴史を記し続ける「楠」に、また新たな一冊を加えることができたと感じております。

この楠を読まれる皆さんが、記念すべき第五十号を紐解き、前橋南高校の現在の活動に触れることを願っております。そして、この記録が生徒達の熱意、行動力、創造性をこれからの後輩達へ伝える教材となってほしいと考えています。もし、数十年後の前南生がこの「楠」を見てくれたら、それは時間を超えた前南生同士のコミュニケーションと言えるのではないかと思います。

「最後に、この生徒会誌「楠」の作成に尽力をしてくださった皆さんに心より感謝申し上げます。